

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の 先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本 世代世代がた を考書を中心に紹介していきます。紙面の制がした。一回に多ま くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授 業や研究の役に立つ本」。また、「知っていると便利な図書・資料」な どを取り上げます。

データ**凡例 11**著者 **2**出版社 **3**刊行年月 **4**ISBN **5ページ数 6**定価 **7**この他た

上級の総合的なコミュニケーション能力の習得をめざす

『中級から上級への日本語』



データ

■鎌田修、椙本総子、富山佳子、宮谷敦美、山本真知子図The Japan Times (〒108 0023 東京都港区芝浦4 5 4 / TEL .03 3453 2013 FAX .03 3453 8023) 図 1998年 5 月 24 7890 0918 1 5 220ページ 図 2 940円 図 開 (スラミン・解説書付

生の素材を使用した教材

この教材は中級の学習者を対象とし、総合的な日本語のありなどは、はいまります。ここでは、中ではないます。ここでは、中級を「パターン化した日常の言語活動ができる」レベル、上級を「予期していない場面での複雑なコミュニケーションができる」レベルとしています。

この教材の特色は、①プロフィシェンシー(proficiency:外国語運用能力)は、「どのような言語生活が、どのように、どれだけできるかである」という考え方がある。

に基づいて書かれていること、②エッセイ、記事、アンケート調査のデータなどの、生の素材を使用していること、③自己紹介、、買い物、※ 京屋探し、就職など、学習者が日本で生活すると出会うと考えられる言語生せいから各ユニットのテーマを選んでいること、④読み物を素材にしているが、「読む」作業まを、「話し合う」「説明する」「報告する」などの表現をする活動につないで、総合的な運動に力が伸ばせるように図られていることです。

生の素材を使っているので、読み物に ふりがなはありませんが、別冊に読みが なつきの「単語リスト」があります。

理解から表現へ、 3段階の課題

各ユニットには、「読む前に」、「読んでみよう」、「読んだあとで」という3段だいの課題と、「重要表現」、「文法・語彙が到」という練習問題があります。

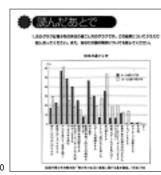
「読む前に」では、ユニットのトピッ

クと関連した小さい読み物について話したからいます。「読ょんでみよう」には、中心になるテキストと、内容の理解を確認するための設問、自分の意見をまとめたり述べたりする課題があります。「読んだあとで」では、資料を見て話し合いをしたり、書いてまとめたりすること、調査など教室外でのプロジェクトワーク的な作業をすることなどが求められています。

この教材では生の素材を使用しているため、語彙や文型、漢字に制限がありません。また、課題、決まった解答があるものではありません。このため、学習者のレベル、関心、かけられる時間などに応じた具体的な目標設定と、作業や練りをどこまで行うかについての選択が重要となるでしょう。



P .154



P .160



『モジュールで学ぶよくわかる日本語 1003』



データ

若い人向けの楽しい教材

この教材は、日本語を50~60時間程度学習した中学生や高校生が、楽しみながら日本語を学んでいけるように作られたものです。もともとはオーストラリアの学生用に開発されたものですが、世界各族(戦)は50年の人にとっても役に立つ表がです。

組み合わせ自由なモジュール型教材

この教材は、3冊で15のトピック(話題)中心のモジュールから成っています。モジュールというのは、それぞれが独立した単位で、モジュール型教材とは、一定の順序に沿って学習していく教材とは違って、必要に応じて、どのような順序ででも使える教材です。ですから、学習者のレベルやコースの特性に合わせて自由に組み合わせて使うことができます。

親しみやすい身近なトピック

15のトピックの内容は、次のように

なっています。

第1冊「わたしの家族」「スポーツ・レジャー・しゅみ」「買い物」「食べ物・飲み物」「学校生活」。

第2冊「わたしの一日」「季節と年中 ねんちゅう (カトロ) 「わたしの国へようこそ」「日本へ (カー) 「カたしの国へようこそ」「日本へ (カー) 「カたしのしょうらいと日本語 の勉強」。

第3冊「旅行に行こう」「留学生活」 「ホームステイの経験」「お世話になり ました」「地球をまもろう!」。

これらのトピックの中から好きなもの を選ぶとよいでしょう。

4技能を考えた パランスのよい構成

各モジュールの構成について見ずるよう。 各課は、①トピックの場ばから、各課は、②そのトピックに関するコミュニケーション能力を養うためのアクティビティ、③聞き取りタスク、④読解タスク(モジュールによっては含むれていない場合もある)、⑤ダイアローグ(モデル会話)、⑥文型や文法事項ので定着を確認するためのエクササイズ(練れるようにでいます。

「アクティビティ」では、実際のコミュ



P.69 トピックの導入

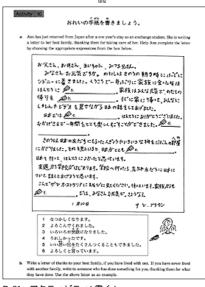
ニケーションを考えた練習と、それに必要な文型練習の両方がバランスよく盛り込まれています。「聞き取りタスク」では、自然な会話から必要な情報を得ることができるように工夫されています。

「読解タスク」では、手紙文や日記形式の教材がたくさんありますから、書く活動につなげていくこともできます。

このような練習の中から、みなさんの クラスに応じて、必要なものを組み合わ せていってください。



P.73 アクティビティ(話す)



P 81 アクティビティ(書く)

*すでに出版されている「モジュールで学素を ぶよくわかる日本語①②」に続いて、こ のたび③が発行されました。

p.20~23は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。 向井園子、藤原かおる、木谷直之、磯村の弘弘、高保健、木山学茂子

基礎から実践、挑戦へ。段階を踏んで学ぶ「速読」法で中・上級者のための速読の日本語』



データ

44 7890 0915 75190ページ

62 ,730円 7 別冊解説書付

日本語の文章から自分に必要な情報や知識をできるだけ「速く」「正確に」読録をできるだけ「速く」「正確に」読録をしているには、どのような考え方や練習をすればいいか? この本は、その理論をと方法をわかりやすく段階的に説明したテキストです。大学マルの日本語を対象にもいいないような大きの学の学習を対象にしています。全体の構成は「基本技術編」「実践編」「挑戦編」の3部からなっています。

まず、「基本技術編」ではスキャニン

グ(情報取り)とスキミング(大意取り) という「速読」に欠かせない基本的な技 術がわかりやすく説明されています。

「キーワードを探す」「文や段落を並べ換える」「内容を予測しながら読む」「要ないようをできませながらませない。 ではいまった。 などのスキミングの具く体的な方法が、いろいろな練習問題に答えていく中で少しずつ明らかになっていきます。

「実践編」では、「基本技術編」で練れるは、「基本技術編」で練れるという。 は、「基本技術編」で練れるという。 は、「基本技術編」で練れるという。 は、「基本技術編」で練れるという。 は、「基本技術のでは、「本人のでは、ディスカッションやロールプレイなどを加えることによって、「読んだ」内容を「話す」活動に結びつける練習の方法が紹介されています。

「挑戦編」では、1~2ページの短い ミステリー小説を読みながら、「速読」 能力の完成を問指します。「これから何 ばない起こるんだろう? このあと、どうなる んだろう?」と話の筋を予測しながら読 み進めていく中で、「速読」能力が高め られていきます。

私たちは日常生活の中でいつも一字一のではいるがらにはいるのでに強いが、 まんせき かくにん (= 「精読」) ばかりをしているわけではありません。この本は「読む」という作業の実際を見直すきっかけになるでしょう。



13

日本人の考え方、日本社会の特徴について説明した本にはかしたかかかかかかいにはかしゃかいとくちょう

『日本人の法則 Rules of the Japanese』

データ

日本人の考え方か行動、習慣には、外が こうとうにとって不思いまでは、 さくいんにとって不思いまでは、 きないことがあるかもしれません。この 本の著者は以前、「日本人の秘密」という 本を書いて、このような疑問に答えなが ら日本人の価値観について説明しました。 今回の「日本人の法則」はその続編にあたる本で、日本人とつきあう上で知っておいたほうがいい習慣や行動パターンを、具体的な46の「法則」として解説しています。例えば(日本人は)「プライベートな質問を平気でする」「規則通りに行うない。をでする」「規則通りに行う動する」「性の露出に無批別」「買い物を定価でするがチップの習慣がない」などのテーマが取り上げられています。

この本に書かれていることは、日本に 住かだことがある人なら「そうそう、そ の通り」と思うことも多いでしょう。も ちろん、この本の説明がすべての日本人 にはなり

に当てはまるわけではありませんが、これから日本に行きたい人や、日本人と一緒に仕事をしている人などにとっては、読めば役に立っことも多いはずです。

授業で使う場合には、日本文化 にはまりつかりはあい を紹介したり、自分の国と比較し てディスカッションしたりするための材 料としても活用できるでしょう。

またこの本では、すべての漢字の読み方が本文の様に書いてありますし、本文が、原本がの様に書いてありますし、本文が、の下には英語の訳が書いてありますから、教をして、ならっとができます。例えば、日本に使うことができます。例えば、日本にの本文の部分だけを使えば、からいとの部分だけを使えば、まりに日に原本の本の説があまり読めないクラスには、英語の部分をけを使って日本事情の教材とすることも可能でしょう。





絵で分かることばの使い分け 『ことばつかいかた絵じてん』

データ

■五味敏雄型三省堂(〒101 8371 東 京都千代田区三崎町2 22 14/TEL の 8230 9412 FAX の3 3230 9569)

3 1998年 3 月 3 日 4 4 385 15031 1

5416ページ63 990円

絵を見てことばで遊ぶ

この辞典は、ことばの意味を説明を読 んで覚えることが目的ではなく、絵を見 ながら場面に応じた使い方が自然に身に つけられるように作られた、子ども向け の辞典です。

この辞典の最大の特色は絵が大きく、しかもふんだんに使われていることにあります。ことばをクイズ風にしてありますから、楽しく学ぶことができます。

毎日の生活の中で使うことば

この辞典には、日本人の子どもが6歳までに使えるようになるといわれる、動詞・形容詞を中心とした約3,000語が取り上げられています。テーマ別にまとめられていますから、ことばとことばのつながりを一緒に覚えたい人にとっても便なりです。

さまざまな場面

各項目は、① なにしているの?」②「ひろがることば」③ どんなかな?」④「くらべてみよう」から構成されていま



P 266 - 267

す。具体的には「おきる」「かおをあらう」「ふくをきる」というように、生活がに続いていた場面が数多くあげられています。「おうちの方たへ」という解説の欄がでは、「たすける」と「たすかる」のような他動詞と自動詞、「きらきら」と「ぴかぴか」のような類義表現の使い分け等についてやさしいことばで説明されていますから、日本語を教えている教師にとっても役に立ちます。



P .171

説明がわかりやすくて便利なカタカナ語辞典 『学校では教えないカタカナ6000語』

データ

□講談社 (カタカナ語研究プロジェクト) 図講談社 (〒112 8001 東京都 こうたんしゃ とうまんしゃ 文京区音羽2 12 21 / TEL 03 5395 3625) 図 1998年3月20日 4 06 208051 65303ページ 61 470円

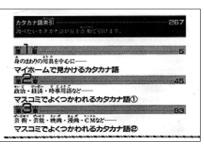
この本は、日本の日常生活の中でよく使われているカタカナ6,000語を取り上がた辞典です。

全体は、カタカナ語を生活場面別に分流した10章と、外国語の略語をまとめた付章から構成されています。たとえば、第1章は身のまわりの道具など、家の中かにあるものに関することばで、「テーブル」や「ベッド」などが入れっています。1章から10章までがどのような分野にわかれているかは目次を見てください。各意は五十音順にことばが並べてあります。ことばの意味を見く見つけたいときには、

巻末の五十音順の索引を使うと便利です。

「ニュース」「ノート」のような日常は 的な会話でよく使うことばも、「ダイオ キシン」などの今日の社会問題について 話すときに必要なことばもあります。説明はわかりやすい日本語で書かれていて、 漢字にはひらがながついています。理解が を助けるためのイラストも活用されています。このような点で中級以上の日本語で 学習者のためにたいへん役に立たます。 また、生活場面別にまとめられているので、日本語ではどのような場面でカタカナ語が多く使われているかもわかります。





カタカナ語





P. 2、3、4 目次